

Special Needs Education Research Center

## SNERC通信

(第36号－2015年3月)

国立大学法人 筑波大学  
 特別支援教育研究センター  
 センター長：四日市 章  
 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1  
 TEL&FAX：03-3942-6923  
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>  
 mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

## 「進化する勇氣 脱皮を楽しむ心 適応する力」

筑波大学特別支援教育研究センター 柘植雅義

生物学者ダーウィンの有名な言葉、「強いものが生き残るのではない。変化できるものが生き残るのだ。」 短い時間に刻々と変わる状況の変化、あるいは長い期間をかけて確実に変わっていく変化、そのような環境の様々な変化を敏感に察知し、必要な変化ができるかどうか。

哲学者ニーチェの有名な言葉、「脱皮しない蛇は死ぬ。」 大小様々な脱皮を繰り返して、強く、大きく、そして、新たな自分に成っていく。心も、身体も、思考も、活動も。脱皮は、成長になくってはならない仕掛け。



〈附属大塚特別支援学校の運動会で〉

心理学者の波多野完治の言葉、「昔は良かったと、よく聞きますね。が、本当に昔が良かったのか、そうじゃない。新しい時代に適応できなくなっただけです。」 状況の変化、世の中の変化に適応できることの大切さ、適応することにエネルギーが必要なことを知らされる。

21世紀の初頭、2001年、日本は、それまでの特殊教育から、新たな特別支援教育に転換すべく助走を始めた。「これまでにない大きなパラダイムチェンジだ。チャンス到来、楽しもう！」、と当時渦中にいて転換に向けた業務に取り組んでいた者として、教員や、行政関係者や、研究者らに繰り返し発言した。「何も変える必要はない。」という反対意見もあったが。

あれから15年が経ち、今、国連が提唱するインクルーシブ教育の考えを踏まえ、特別支援教育がさらなる進化を始めた。今度は、「合理的配慮」とか「差別解消」とか「権利」とかの言葉を携えて。

私たちが目指すのは、『共生社会』（内閣府）の確かな実現である。そのために、これから何回、脱皮を繰り返すことになるのだろう。楽しみだ。

最後に、よく知られた言葉をもう一つ。

「ディズニーランドは永遠に完成しない。想像力が残っている限り、成長し続ける。」  
 （ウォオルト・ディズニー）

## ■平成 26 年度現職教員研修生 成果報告会・修了式

3月12日（木）、4名の研修生の成果報告会および修了式が行われました。それぞれの表情からは、研修での学びの喜び、報告書作成の苦労や達成感などが感じられました。

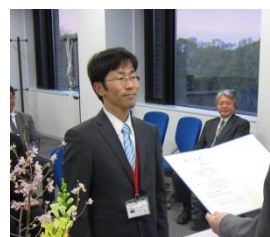
1年間、研修にご協力いただきました各学校の先生方ならびに成果報告会、修了式にご出席いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。



佐々木大輔教諭



中村吉伸教諭



加藤 悠教諭



根本浩晃教諭

### 研修タイトル一覧

氏名（所属校）とタイトル	指導教員
<b>加藤 悠（静岡県立静岡北特別支援学校）</b> 特別支援学校(知的障害)における幼児・児童の主体性に関する研究 ー主体性に関するチェックリストの作成とその使用ー	柘植 雅義
<b>佐々木大輔（千葉県立楨の実特別支援学校）</b> 知的障害のある生徒の他者に認められる経験をとおした「仲間関係」を育む支援 ー特別支援学校における学部全体で統一された評価ツールの検討ー	柘植 雅義
<b>中村吉伸（千葉県立桜が丘特別支援学校）</b> 脳性まひ児の自己教育力の育成に係る事例検討 ー自立活動の指導を通してー	安藤 隆男
<b>根本浩晃（千葉県立銚子特別支援学校）</b> 卒業後の生活からみた自立活動の指導に関する一考察 ー卒業生(重度・重複障害者)の事例調査を通してー	安藤 隆男

★研修報告書の貸出を行っております。ご希望の方はセンターまでお問い合わせください。

## ■指導教員から現職教員研修生へ

研修生の皆さん、修了おめでとうございます。研究に没頭した1年間、楽しかったと思います。でも、これからの年月の方がもっと楽しいと思います。なぜなら、この1年間で、研究の面白さを知り、研究を進めるスキルを身に付けたからです。研究を味方に付けた教員人生がいよいよ始まるのです。この1年間で、遠い昔の思い出にしないように。

柘植雅義



修了おめでとうございます。教職は、つねにその理想を求めるところに特徴を指摘でき、研修と修養を修めた成果として専門性の向上が期待できます。皆さんは、1年の時間を研修に当ててこられました。各自に確かに刻まれた成果は、今後、実践研究の糧となります。しかし、それに止まらず、学校や地域の教育の底上げにも大いに貢献されることに努めてください。

安藤隆男



## ■附属ニュース（附属久里浜）

附属久里浜特別支援学校小学部では、書家の金澤翔子さんを迎え12月11日に書道交流会を行いました。始めに、金澤さんに「共に生きる」を書いていただきました。子どもたちは力強い大きな文字とその様子に刺激され、書道に興味をもったり筆で伸びやかに文字や絵を表現したりしました。また、金澤さんに作品を褒めていただきとても嬉しそうでした。心に残る体験となりました。後日、幼稚部の子どもたちは、墨遊びを楽しみました。





## ■共催セミナーのご案内

当センターでは、国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会との共催によるセミナー「特別支援教育の伸展（3）-情報の集約と発信-」を開催いたします。第一部では、附属特別支援学校5校と連携しながら取り組んでいる「教材・指導法データベース」に関連した講演と事業報告がおこなわれます。また、第二部では四日市センター長の職記念講演「聴覚障害とことば」を開催いたします。すでに学内外の方から多くの申込みをいただき、席が少なくなってきました。参加をご希望の方は以下の要領でお申し込みください。

- 期 日 平成27年3月27日（金）
- 場 所 筑波大学文京校舎134教室（東京文京区大塚3-29-1）
- テーマ 『特別支援教育の伸展（3）-情報の集約と発信-』
- 日 程
  - 12:30 受付
  - 13:00 開会挨拶及び趣旨説明（四日市 章 センター長）
  - 13:15 第一部 講演「学習上の支援機器等教材の活用と普及」  
金森 克浩（国立特別支援教育総合研究所総括研究員）
  - 14:15 事業報告「附属特別支援学校・センター・教育局の連携による  
教材・指導法データベース事業」  
宮崎 善郎（筑波大学特別支援教育研究センター）
  - 〈休憩〉14:35～14:50
  - 14:50 第二部 退職記念講演「聴覚障害とことば」  
四日市 章（筑波大学人間系教授・特別支援教育研究センター長）
  - 16:20 閉会挨拶
- 申し込み 3月23日（月）までにメール [snerc@human.tsukuba.ac.jp](mailto:snerc@human.tsukuba.ac.jp) もしくはファックス（03-3942-6938）にてお名前とご所属を明記の上、担当宮崎までお申し込みください。
- その他 情報保障等のご配慮が必要な場合は事前にご相談ください。

## ■ご利用ください！

本年度、センターでは以下のような検査器具等の購入をおこないました。ご使用を希望される場合にはセンターまでお申し出ください。また、購入してもらいたい検査器具等ありましたらセンタースタッフまでご連絡ください。

- ・日本版 WISC-IVによる発達障害のアセスメント-代表的な指標パターンの解釈と事例紹介-
- ・エッセンシャルズ WISC-IVによる心理アセスメント
- ・DN-CAS による子どもの学習支援-PASS 理論を指導に活かす 49 のアイデア
- ・エッセンシャルズ DN-CAS による心理アセスメント
- ・旭出式社会適応スキル（検査手引、検査用紙）
- ・日本版 Vineland-II 適応行動尺度（マニュアル、記録用紙）